



らいぶらり えひめ

Library Ehime

2022(R4)10.1 発行

No. 238

愛媛県立図書館報

本を貸すだけじゃないんです

愛媛県立図書館長

小池 照雄

いつも県立図書館をご利用いただきありがとうございます。図書館勤務2年目となりましたが、今でも新しい発見や感動の毎日を過ごしています。昨年度の本稿では、新任館長として思うこと感ずることを「県立図書館の果たすべき役割」として、利用者の年代別のニーズを中心に書かせていただきました。その後1年が経過した今、私自身が改めて感じている県立図書館の県民に果たすべき役割について、今回は、来館者、非来館者サービスという視点で紹介させていただきます。

まず、来館者サービスについて。大人の場合、来館者の多くは、目当ての本を探しに、あるいは新しい本との出会いを求めてこられます。リクエストに応じて、書庫とカウンターを行ったり来たりしながら、速やかに本を提供するのはもちろんのことですが、折々のテーマを決めて、司書が厳選したおすすめの本を並べる特別コーナーを設けるなど、来館者が気軽に本を手にとる機会も提供しています。素敵な本との出会いや、未知のジャンルへの初めの一步となれば幸いです。家庭や通勤時等に読む目的で借りていかれる方が大半ですが、館内の静かな環境の読書スペースで読まれる常連さんもうらっしゃいます。その方々と毎日あいさつをかわすことは私の大切な日課になっています。本が人をつなぐということを実感する瞬間です。

一方、子ども読書室の来館者への我々の思いは、「子どもと本との出会い」のお手伝いでしょうか。「どの本もページをめくることができ、絵や文字が書(描)かれている。興味のあるものは借りて帰られる。保護者が一緒に読んで聞かせてくれる。頑張れば自分一人で読むことができるようになるかも。そんな楽しい魔法のような本がこの部屋には無限にある。なんて素敵な空間なんだろう。」こんなことを体感しながら、本の世界への夢を膨らませてくれればいいなど、来館する子どもたちの顔を見ながら感じています。本棚の本から発せられるオーラのようなものを全身で浴び、すくすく成長して行ってほしいと願っています。テーマを絞った特集コーナー、POP等の掲示物にも、子どもや保護者に興味を持ってもらえるよう、司書が知恵を出し合い工夫を凝らしてくれています。子どもの成長に本は必要不可欠なものであるからこそ、タイムリーに最適な本に手がとどく環境を用意しておきたい。ママやパパの子育てに、本を通じた支援をさせていただきたい。これが我々の思いです。

次に、非来館者へのサービスについて。従来の、公民館等を対象に、一定期間、段ボール箱単位で

貸し出す「協力図書」に加えて、昨年度から開始した学習支援用協力図書「まなぼん」は、好評を博し多くの学校から問合せや申し込みをいただいているところです。そのほか、0歳児からを対象に発達段階に応じた、読み聞かせのおすすめ絵本リスト「子どもとたのしむ絵本の時間」や、幼・小・中・高向けの推薦図書リスト「探検しよう!本の国」を作成し、各所に配布したりホームページで公開したりしています。愛媛の将来を担う乳幼児を含めた若い世代が、県立図書館が作成した推薦図書リストを入口にして、言葉との出会いから始まり、文字と親しむことで本の楽しさを知り、素敵な本と出会ってほしい。主人公とともに夢と冒険の旅に出発したり、昆虫や電車などの図鑑に触れて自分だけの世界を創造したりすることで、空想する力や表現する力を身に付けてもらいたい。その一助になりたいと願って、本を選んでいきます。

来館者、非来館者サービスの区別なく重要な業務となっているのが、新聞や雑誌のバックナンバーに加えて、郷土の歴史や文化に関する資料の収集・保存です。藩政期から明治、大正と貴重な資料を保存・管理し、利用者が必要な際に閲覧できるよう、膨大な資料の電子化にも現在取り組んでいます。Web公開しているものは、ご家庭からでもアクセスすることができます。こういう資料が見たいと求めがあれば、スムーズに提供できるよう、専門知識を持ち地元の歴史や文化に精通した司書が、利用者からのレファレンスに対応しています。様々な情報がネットで入手できる時代であるからこそ、ネットでは手に入れることができない情報やサービスを提供するのが、県立図書館の役割であると認識しています。

最後に、学校とのつながりについて。司書は、県内の学校に出向いて、ブックトークや図書館整備支援に向けた助言活動も行っています。回数に限りがあり、学校の希望どおりには訪問できないのが現状です。しかし、子どもと本とのつながりを演出することこそが図書館の最大の業務の一つであるとの認識のもと、できることはないか知恵を絞っていますので、学校の先生方も児童生徒の読書に関して質問やお悩み等がございましたら、お気軽にご相談ください。当館には自習室が2部屋あり、多くの中高生が利用してくれています。放課後でなくても利用できます。学校に行くのがちょっとしんどくなったという人も、生活リズムを乱さないよう自習しにきてみてはどうですか。勉強に疲れたら気分転換に読書もできますよ。お待ちしております。

学習支援用協力図書「まなぼん」ができました

「まなぼん」ができるまで

令和3年度の9月補正予算において、「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」が交付されることとなり、県立図書館では、子どもたちと本との出会いに貢献するため、学校への一括貸出ができる図書箱の作成をすることになりました。

まずは、学校で利用しやすいようにテーマを設定しました。例年、先生方から貸出の相談が多い、環境や防災、福祉、SDGsなど、調べ学習用のテーマに加え、さまざまなジャンルを用意できるよう日本十進分類法(NDC)を参考にテーマを選びました。9類(文学)については、朝の読書や日頃の読書活動で利用してもらうため、同じ作者の作品を集めたセット、落語や神話などジャンル別のセット、県立図書館が毎年発行している「探検しよう！本の国～子どもにおすすめの本～」のセットを用意することにしました。また、学校では揃えにくいバリアフリー（しかけや点字がある絵本など）や英語の本のセットも作ることにして、全部で90のテーマを設けました。

次に、小学校低学年、中学年、高学年、中学・高校、特別支援学校(級)と5つの対象別に図書を選んでいきました。1箱30冊～40冊程度の本を選ぶのですが、これは、時間がかかりました。従来から貸出が多く定番と思っていた本が絶版になっていたり、読みやすいと思って注文した本が大きすぎて箱からはみ出したりと、思わぬところで、本が集められないこともありました。全校向けや対象を限定しない箱も作ることにして、1つのテーマに最大6対象、最小1対象を設定し、本を選びました。そして、最終的に148種類の箱ができました。1種類につき2～6箱用意したので、全部で403箱の「まなぼん」を整備することができました。



「まなぼん」の並ぶ棚

「まなぼん」の貸出スタート

本が揃った箱から順に貸し出すことにして11月末から貸出を開始しました。県内全域の小中高등학교及び中等教育学校、特別支援学校等へ案内を送りましたが、2学期の後半だったため、申込みはわずか。そこで、公共図書館のない町の小中

学校へ個別に案内し、利用してもらうことになりました。令和4年1月から各町の小中学校の学校図書館主任の先生に連絡を取り、利用案内をしたところ、かなりの学校にご利用いただきました。利用していただいた学校へはアンケートを行っており、先生方からは「テーマに沿った本を多く見ることができた」「新しい本を子どもたちが喜んでいた」「学校が送料を負担せず利用できてありがたい」との声が寄せられました。



発送の準備ができた「まなぼん」

読書活動推進に「まなぼん」を！

令和4年度は、例年、年度当初に学校へ送っている「県立図書館の利用について」の案内資料に「まなぼん」のチラシも入れて広報しました。令和3年度に利用のあった学校からは早速申し込みがあり、大変うれしく思いました。反面、まだまだ「まなぼん」の利用について、周知が行き届いてないと感じることもあり、広報紙「まなぼんのすすめ」を学校向けに発行して、利用の案内を続けているところです。



教室前に並べられた「まなぼん」の本

愛媛県の子どもみんなに「まなぼん」を！

約400箱がいつも稼働して、子どもたちの読書活動の推進に役立てられるようになったら！そんな夢を実現するため、県立図書館が行っているブックトーク事業や学校図書館整備支援事業、おでかけ県立図書館事業でも積極的に「まなぼん」を活用するように計画しています。そして、実際に利用することで、先生方と子どもたちに「まなぼん」の良さを実感してもらいたいと思います。また、アンケートをもとに、さらに内容の充実にも努めていきたいと考えています。「まなぼん」の利用をきっかけに読書に関心をもつ子どもが増えることを願っています。

(読書振興グループ 高藤 美樹)

「個人向けデジタル化資料送信サービス」の開始について

令和4年5月から、国立国会図書館が新たに開始した「個人向けデジタル化資料送信サービス」についてご紹介します。

国立国会図書館資料のデジタル化

国立国会図書館は、平成10年以降、積極的に所蔵資料のデジタル化を進め、それらは次の3つに分けて公開されています。(点数は令和4年5月時点)

(1) インターネット公開：約57万点

著作権保護期間が満了するなど、権利状況に問題がない資料です。インターネットを利用できる環境があれば、国立国会図書館ホームページから閲覧できます。

(2) 図書館・個人送信：約152万点

インターネット公開していない資料のうち、絶版等の理由で入手が困難な資料です。資料の利用については、後述します。

(3) 国立国会図書館館内限定：約72万点

(1)(2)に当てはまらない資料です。国立国会図書館に来館のうえ、ご利用ください。

愛媛県立図書館におけるデジタル化資料の利用

平成26年1月には、上記(2)の「絶版等の理由で入手が困難な資料」が、国立国会図書館の承認を受けた公共図書館や大学図書館等を対象に送信されるようになり、愛媛県立図書館では同年4月からこのサービス(図書館向けデジタル化資料送信サービス)を提供しています。当館3階・一般図書室または4階・えひめ資料室の端末で閲覧できるほか、著作権の範囲内で印刷(プリントアウト)も可能です(有料)。年間で延べ100人前後の方にご利用いただいています。

個人でのデジタル化資料の利用が可能に

このたびの新型コロナウイルス感染拡大により、全国的に多くの図書館が休館を余儀なくされました。「来館せずに資料を利用したい」というニーズの高まりを受けて著作権法が改正され、今年5月19日から、個人向けにも国立国会図書館のデジタル化資料が送信されるようになりました。「個人向けデジタル化資料送信サービス」といいます。

このサービスを利用できるのは、国立国会図書館の「登録利用者(本登録)」のうち、日本国内に居住している方で、個人向けデジタル化資料送信サービスの利用規約に同意している方です。

利用できる資料は、国立国会図書館が昭和43年までに受け入れた図書等約55万点、明治期以降に発行された雑誌のうち、刊行後5年以上経過したもので、商業出版されていないもの約82万点など、計152万点にのぼり、図書館向けに送信される範囲の資料と同様のものです。

当面は閲覧だけに限られるので、印刷は図書館等をご利用いただくこととなりますが、来年1月には印刷も可能になる予定です。

【参考】国立国会図書館ホームページ

<https://www.ndl.go.jp/>

【「図書館向けデジタル化資料送信サービス」を利用できる県内の公共図書館】

松山市立中央図書館、今治市立中央図書館(閲覧のみ)、新居浜市立別子銅山記念図書館、大洲市立図書館、東温市立図書館、砥部町立図書館、内子町図書情報館、愛媛県立図書館

(相談グループ 橘 可奈子)

3階一般図書室のリニューアルについて

子育て支援情報コーナー・医療健康情報コーナー・ヤングアダルトコーナーは、これまで、コーナーの区切りが分かりにくく通りづらい書棚の配置でした。令和4年3月の特別整理休館中にこれらの書棚を移動し、凸凹になっていた側面を揃えて各コーナーへ行きやすくするとともに、記載台と案内掲示板を移動して入口付近を広々とさせました。

(相談グループ 木下 和幸)



FC今治、 愛媛プロスポーツアーカイブズに新加入

愛媛プロスポーツアーカイブズとは、愛媛県の地域密着型プロスポーツ(愛媛県の「プロスポーツを活用した地域振興事業」対象団体)に関する資料を収集・公開するコーナーで、平成22年7月に開設しました。これまでの愛媛FC(プロサッカー・Jリーグ)、愛媛マンダリンパイレーツ(プロ野球・四国アイランドリーグ plus)、愛媛オレンジバイキングス(プロバスケットボール・Bリーグ)に続き、令和4年度よりFC今治(プロサッカー・Jリーグ)が新たに収集対象になりました。

令和4年6月には、新加入記念展示として「FC今治が描く未来」を開催しました。FC今治の企業理念や2025年に目指す姿、アドバイザーボードの著作、そして新たに収集した資料を展示しました。

愛媛プロスポーツアーカイブズではこのほかに、「愛媛のなでしこ」愛媛FCレディースを観に行こう！2021(令和3年6月～8月)、「愛媛FCと本を読もう!! 2021」(同9月～11月※県内の5つの図書館で巡回展示も開催)、「世界につながる愛媛のプロスポーツ ニューージーランド編」(同12月～令和4年2月24日)、「6年ぶりの出航!弓岡パイレーツ」(同2月26日～5月)と、各チームと連携して多種多様な展示を開催してきました。これからも各チームの資料を収集して後世に伝えるとともに、各チームの魅力を伝え実際の観戦につながるような展示を行っていきたいと考えています。



展示「FC今治が描く未来」

(相談グループ 天野 奈緒也)

遠隔地返却サービス 担当者説明会を開催しました

平成27年度4月より開始した図書の遠隔地返却サービスは、県内20市町すべての協力により、令和4年度で8年目を迎えました。これまでは、改訂したマニュアルを通知することで手順等の確認を行っていましたが、各自治体施設でよりスムーズに対応できるよう、今年度初めて県立図書館職員による担当者説明会を開催しました。新任者の参加も考慮し、新年度が始まって一段落した5月下旬に会場参加とオンライン参加の併用によるハイブリッド方式で実施し、5市町からの参加がありました。

担当者説明会では、まず遠隔地返却サービスについて、事業の内容や返却資料の受付時の手順、梱包方法等の説明を行いました。初めて担当になった職員にも具体的に業務がイメージできるよう、マニュアルだけでは分かりづらい内容を、写真や動画を用いながら、それぞれの対応ケースごとに手順を確認しました。

また、今回は市町から問合せが多い市町支援事業についても併せて説明を実施しました。県立図書館の市町支援事業には、協力貸出と協力図書があり、それぞれの担当者による説明を行いました。説明では県立図書館への依頼方法や、貸出・返却方法、諸注意等があり、市町に県立図書館の資料をより活用していただけるよう周知に努めました。

説明会に参加された市町からは、日頃からの質問や今回の説明を受けてさらに詳しく知りたいといった声が聞かれました。担当者や職員の方々と直接コミュニケーションを取ることで、各事業の円滑化に努め、市町からの反応を今後のマニュアル等に反映することで、県民への図書館サービス向上に繋げていきたいです。



(相談グループ 堀内 悠加)

壁の裏に鹿?! ～旧愛媛県立博物館ジオラマ公開～

かつて、図書館の建物内にあった愛媛県立博物館。実は、当時のジオラマの一部がえひめ資料室の壁裏に今も残っています。博物館閉館から12年の時を経た令和3年、室内改装を機にそのジオラマを期間限定で公開しました。

図書館に残るジオラマは、博物館時代の第1展示室「愛媛の古生物の歴史」の一面。普段は閉じている壁の窓を開け、三葉虫がサンゴ礁の海を泳ぐ約4億年前から、ナウマンゾウが闊歩した1万年前の愛媛をのぞき見てもらいました。『愛媛県立博物館展示解説』(昭和59年)によると、西予市野村町や久万高原町、瀬戸内海で採集した化石から復元したとのこと。精巧な模型は健在で、「本物ですか?」としばしば聞かれるほどでした。



博物館時代(左)と現在(右)のニホンムカシジカ

とは言え、時は確かに流れていたジオラマ。公開前には手入れが必要でした。館長と館長補佐も加わり、鹿やアンモナイトを窓の近くに移動させ、折れた花をもたげ、照明を整えて準備を進めたのは、館内整理日の賑やかな1場面です。



4つの窓の向こうに、太古の愛媛が広がる

公開中にはテレビの突撃取材もあり、やのひろみさんが面白くりポートしてくださいました。そして、普段はえひめ資料室を訪れる機会のない子どもたちがたくさん見に来てくれました。

県立博物館の名残と共に、県立図書館は今日も開館しています。

公開期間：令和3年7月1日～12月17日

(図書整理グループ 伊井 友世)

郷土資料の収集にご協力ください

郷土資料を収集しています

ご協力をお願いいたします。

愛媛出身または在住のかたで、ご著書をご刊行された際は、なにとぞ当館にご寄贈くださいますようお願い申し上げます。郷土の貴重な記録として後世に残すとともに利用に供し活用して参ります。ご協力くださいますようお願いいたします。

また、愛媛に関する資料についての情報もお待ちしております。

愛媛県立図書館

- 著書を出版した。
- 不要になった会報や記念誌を捨てようと思っている。
- 実家を片付けていると家族やその友人が発行した句集や雑誌があった。 等

このような場合には、お手数ですが、ぜひ愛媛県立図書館にご寄贈ください。販売されている本と異なり、郷土資料は捨ててしまったら、どこにも残らない可能性があります。愛媛県立図書館では、ご寄贈いただいた資料を利用に供するとともに、郷土の記録として保存に努め、後世に残して参ります。そのため、できれば保存用と利用用に2部いただきますようお願いいたします(ない場合は1部でも結構です)。個人情報に掲載されている場合は、貸出や複写を制限した上でご利用いただきます。

郷土を知るため、郷土の記録を残すため、ご協力をお願いいたします。

ご連絡・ご相談は、えひめ資料室まで
電話：089-941-1441(代)
kyodo@libnet.ehimetosyokan.jp

(図書整理グループ 中村 由紀)

伝えよう読書のよろこび、広げよう感動の輪 愛媛県読書グループ連絡協議会（県読連）—総会・読書推進大会だより—

令和3年度 読書推進大会

令和3年11月30日(火)、道後のにぎたつ会館にて、2年ぶりの大会開催となりました。県内各地から読書グループ関係者、読書愛好者等82名の皆様にご参加いただきました。

まず、事前に書面開催とした総会の報告を行いました。続いて、「さくら読書会」(大洲市)による「私たちの読書会活動」と題した事例発表では、50年以上続く歴史ある会の歩みや、現在もしている例会等の活動について、お話いただきました。

講演は、SORA 朗読研究所代表の矢野雅世氏と、篠笛奏者の竹内直子氏による「音で楽しむ物語の世界」でした。矢野氏の著書『声に出して味わう子規』から、子規の随筆や詩の素晴らしさを朗読で実演いただきました。源氏物語の朗読と篠笛演奏のコラボレーションでは、心地よい声と美しい音色に参加者は魅了されていました。



矢野 雅世氏

令和4年度 総会並びに読書推進大会

令和4年5月31日(火)、にぎたつ会館にて開催されました。4年度は、87名の皆様にご参加いただきました。

総会は、森川会長を議長に進行され、すべての議案について、承認をいただきました。続く事例発表は、「いよ本プロジェクト」(伊予市)から「本でつながる」と題して、本の交流会や古本交換会等の取組についてご説明いただきました。本によって人と人をつなぐ具体的な活動の紹介に、参加者は興味深く聞き入っていました。

作家の宇佐美まこと氏による「本を読むことは想像力の源」と題した講演では、少女時代から現在の作家活動につながるお話をお聞きしました。ジャンルにとらわれず様々な作品を発表される宇佐美氏のお話には、読書欲が刺激されました。



宇佐美 まこと氏

(読書振興グループ 岡本 かおり)

<子どもとたのしむ絵本の時間

小学1・2年生と一緒に読みたい絵本>

読み聞かせボランティアや保護者の方向けに、読み聞かせのコツやおすすめの絵本を紹介するパンフレット「子どもとたのしむ絵本の時間」、3冊目となる「小学1・2年生と一緒に読みたい絵本」を発行しました。子どもたちと一緒に楽しいひとときを過ごすのにお役立てください。



<探検しよう！本の国

子どもにおすすめの本2022>

1年間に当館で受け入れた子どもの本の中から、おすすめの本50冊を職員が選びました。幼児・小学低学年・中学年・高学年・中高生の各年代向けに10冊ずつ、絵本や物語、ノンフィクションなど、さまざまなジャンルの本を推薦しています。

このブックリストから新しい本との出会いが生まれることを願っています。



(読書振興グループ 石川 幸代)

愛媛県立図書館の利用案内

【開館時間】

火曜から金曜…午前9時40分から午後7時まで
土・日・祝日…午前9時40分から午後6時まで
子ども読書室…午前9時40分から午後5時まで

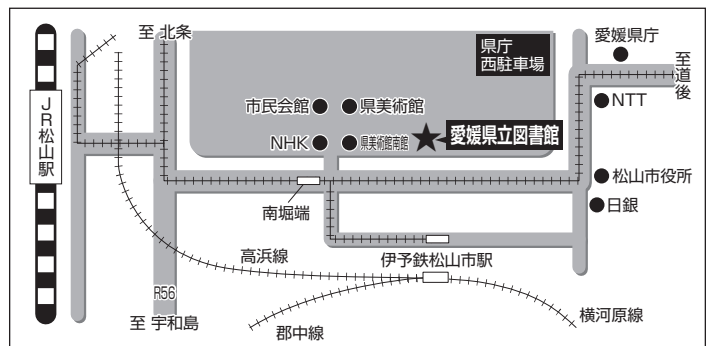
【休館日】

月曜日(祝日の場合は、直後の平日)
年末年始(12月29日～1月3日)
特別整理期間(10日以内で館長が定める日)
館内整理日(毎月末日、ただし、その日が上記休館日、土・日曜日に当たるときは館長が定める日)

【駐車場】

図書館専用の駐車場はありませんが、**県庁西駐車場**(旧国際交流センター跡地)を2時間ご利用いただけます。ただし、駐車台数に限りがありますので、できるだけ公共交通機関のご利用をお願いします。

<付近略図>



編集・発行 愛媛県立図書館

〒790-0007 松山市堀之内 TEL 089-941-1441(代表) FAX 089-941-1454
https://www.ehimetosyokan.jp e-mail: tosyokan@pref.ehime.lg.jp(代表)